

令和元年 11 月 8 日

日光市議会議長 斎藤伸幸様

日光市議会議員 粉川 昭一

議員派遣報告書

目的 (会議等の名称)	議員向け財政研修(決算状況歳入・歳出)
会議等の 主催者の名称	地方議員研究会
場 所	名称等：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター 住 所：東京都中央区京橋 1-7-1 戸田ビルディング
期 間	令和元年 10 月 28 日 (月)～令和元年 10 月 28 日 (月)
会議等の内容	別紙資料のとおり
会議等の 所感・成果等	<p>立命館大学政策科学部教授の森裕之博士による、「世界一丁寧で、わかりやすい 議員向け財政研修」のうち、決算状況の歳入と歳出についての研修でした。</p> <p>研修内容は、地方財政全体を理解するために、参加者毎にそれぞれの自治体の決算カードが配られ、講師の説明を基に自身の自治体の決算カードから数字を読み解いていきます。</p> <p>始めに、国と地方の歳出規模の説明があり、教育・福祉・公共事業などの内政分野の大部分を地方財政が支えている事が理解できます。次に、平成 29 年度のデータを基に、国の</p>

地方間の財源の配分について伺いました。税と歳出の配分比率が逆転しており、歳出総額の不足を公債(国債・地方債)で補っている現状が分かります。

決算カードでは、読み方の説明があり詳細な内容は、地方財政状況調査表に記載されている事を色々な例を基に説明がありました。

決算状況の歳入では、一般財源と特定財源についての説明があり、租税は平均で4割弱に過ぎず、残りを地方交付税、国庫支出金等と地方債で賄っている事が理解できます。

説明では、自治体の歳入を家計にたとえ説明があり、地方交付税や臨時財政対策債の説明も解りやすく、国の地方交付税の仕組みを理解することが出来ました。説明の中で特に、国は臨時財政対策債を返してくれるのかと問われ、国の制度に左右されるリスクを認識させられました。

決算状況の歳出では、目的別歳出と性質別歳出の違いについて説明があり、性質別歳出は、自治体の財政状況を分析する上で不可欠なものと説明がありました。

平成29年度のデータを基に、都道府県と市町村の性質別歳出の構成比の説明と、性質別歳出の構成比の推移の説明があり、物件費の増加が示され、人件費と物件費に関する説明があり、その中でPFIの課題が示されました。次に繰り出し金や積立金、公債費について説明があり、決算カードの読み方を理解することが出来ました。

個別の講師への質問で、日光市の財政について伺うと、決算カードを見ながら、各種繰り出し金の繰り出し先の状況をつかみ、歳出抑制を図る必要があると言う事と、積立金の無くなるまでの期間があるので、危機感をあおる必要はないが、早期の構造改革の必要があると伺いました。

毎年決算の時期に執行部より提出される決算カードと、地方財政状況調査表について、今回受講したことにより、その読み方と内容を理解する事が少しでも出来たことは、

	<p>日光市の直面している財政の課題を理解することに繋がり、改善に向けた議員としての取り組みに繋がる事と思われました。</p>
--	---